（ 平 成 ２ ７ 年 版 ）

大分県における救急の現況

大分県生活環境部消防保安室

平成２７年版大分県における救急の現況」の要点

１　救急業務の実施状況

⑴ 救急出動件数及び搬送人員ともに過去最多を記録

平成２６年中の救急自動車の救急出動件数は、前年に比べ９０２件増（１．２%増）の５１，３９３件、搬送人員は、前年に比べ５４３人増（１．１%増）の４８，０４７人で、増加傾向は止まらず、ともに過去最高となった。

⑵ 管外搬送人数は増加

平成２６年中の消防本部が自らの管轄地域外の医療機関に搬送した人数（管外搬送人数）は、前年に比べ２１８人増の８，２０６人で、全救急搬送人員に占める管外搬送人数の割合は、０．３ポイント上がって１７．１%となった。

消防本部の管轄地域と２次又は３次医療機関の所在地との相関で、消防本部間の差が顕著となっている。

⑶ 現場到着までの平均所要時間は短縮・病院収容までの平均所要時間は長く

平成２６年中の現場到着までの平均所要時間は、前年に比べ０．１分減の８．１分、病院収容までの所要時間は、前年に比べ０．４分増の３４．６分となった。

なお、平成２６年中の全国の現場到着までの平均所要時間は８．６分、病院収容までの平均所要時間は３９．４分となっている。

２　救急搬送の状況

⑴ 事故種別の搬送人員は、「急病」が依然として半数以上

平成２６年中の事故種別の搬送人員では、「急病」が前年に比べ７０４人増の２７，４８７人で、全体の５７．２%を占めており、依然として高い割合となっている。

⑵ 年齢区分別の搬送人員は、「高齢者」が６０%超を占める

平成２６年中の年齢区分別の搬送人員では、「高齢者」が前年に比べ１，３１４人増の３０，０８４人で、全体の６２．６%を占めており、全国平均の５５．５%を７．１ポイント上回っている。

⑶ 傷病程度別の搬送人員は、「中等症」と「軽症」が高い割合

平成２６年中の傷病程度別の搬送人員では、「中等症」が前年に比べ１，０４５人増の２２，１６７人で、全体の４６．１％を占めており、全国平均の４０．２％を５．９ポイント上回っている。

「軽症」は、前年に比べ６７８人減の１７，１８９人で、全体の３５．８％を占めており、全国平均の４９．４％を１３．６ポイント下回っている。

３　救急業務の実施体制

⑴ 救急隊員数、救急救命士数は増加

平成２７年４月１日現在における救急隊員数は、前年に比べ１８名増加し６０９名で、そのうち救急救命士の資格を有する職員は、前年に比べ６名増の２９０名となっており、救急隊員数に占める割合は４７．６％となっている。

出動する隊員のうち少なくとも１名が救急救命士である「救急救命士運用隊」の数は５７隊で、全救急隊数６０隊に占める割合は９５．０％となっている。

⑵ 高規格救急自動車数は増加、しかし導入率は依然として全国平均を下回る

平成２７年４月１日現在の救急救命士による高度な処置が可能な「高規格救急自動車」台数は、前年と比べ４台増の６４台で、全救急自動車台数７３台に占める割合は８７．７％となったが、全国の平均導入率９３．３％を大きく下回っている。

４　救急救命措置の実施状況

⑴ 救急救命士による特定行為実施件数の増加

平成２６年中における救急救命士による特定行為実施件数は、前年に比べ１６３件増の８３４件で、年々確実に特定行為の実施件数は増加している。

⑵ 消防機関による救急救命講習は７年連続で１万人を超える

平成２６年中における救急救命講習を受講した住民は、１１，３１９人で、８年連続で１万人を超えた。

1　救急業務の実施状況

【平成 26 年中における救急業務の実施状況】

1．救　急　出　動　件　数　　51,393　件（前年比 902 件増）

2．救　急　搬　送　人　員　　48,047　人（前年比 543 人増）

3．う ち 管 外 搬 送 人 員　　8,206　人（前年比 218 人増）
　　【総搬送人員に占める割合 17.1　%（前年比　0.3%増）】

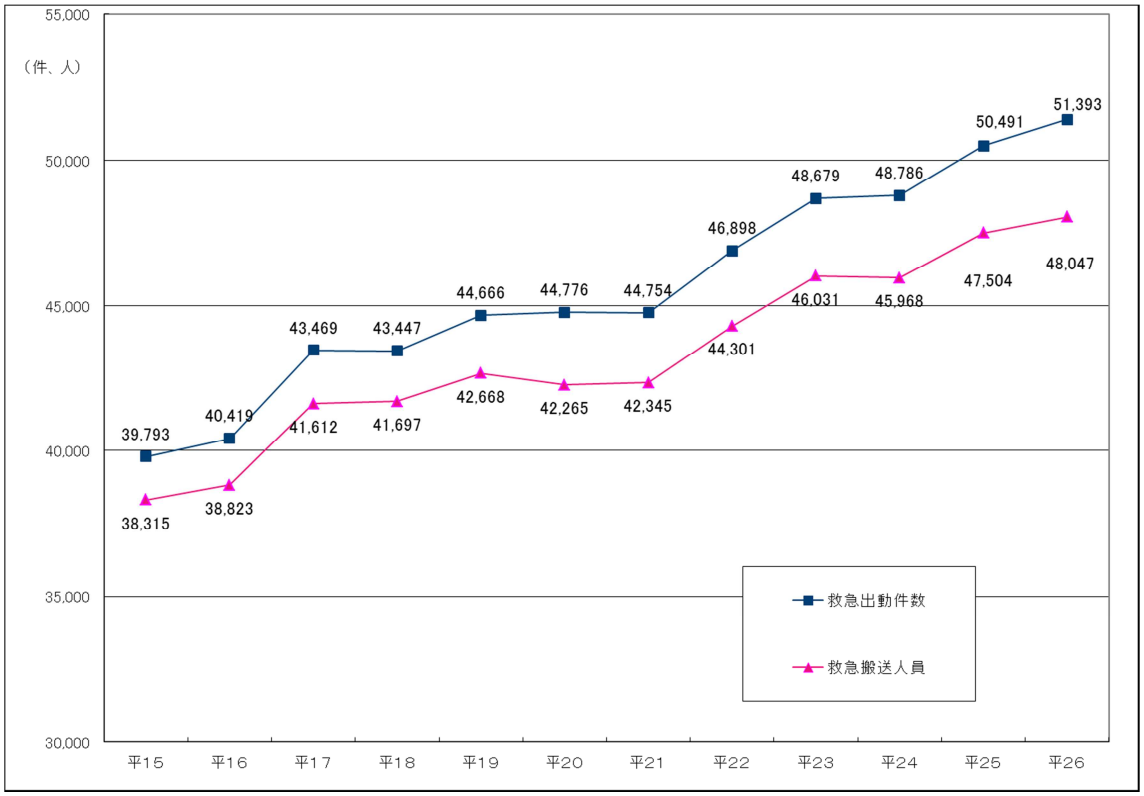
4．現 場 到 着 所 要 時 間　　8.1　分（前年比 0.1 分減）
　　【全国平均　8.6 分】

5．医療機関収容所要時間　　34.6　分（前年比 0.4 分増）
　　【全国平均　39.4 分】

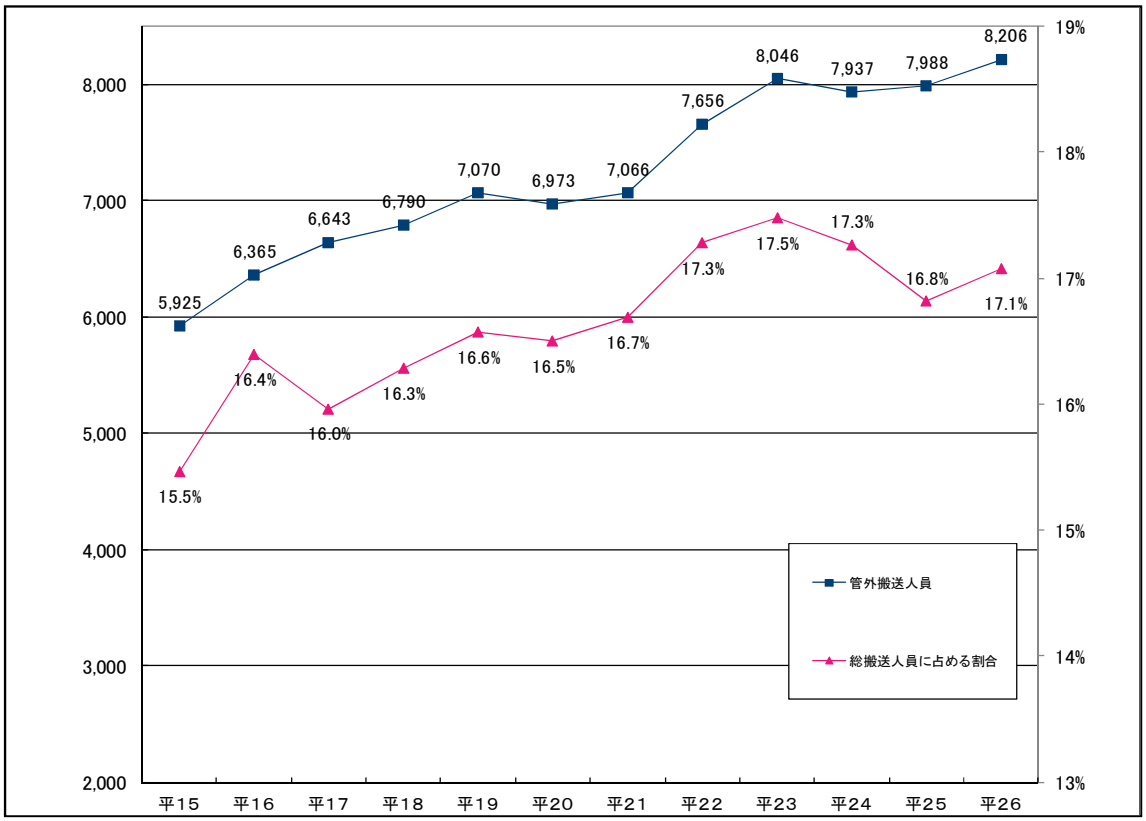
第１表　　各消防本部における救急出動件数及び救急搬送人員（単位：件、人）

消防本部	救急出動件数（件）	前年比	救急搬送人員（人）(a)	前年比	うち管外搬送（人）(b)	前年比	管外搬送率 b／a(%)	前年比
大分市消防局	17,450	505	15,968	236	627	80	3.9%	0.4
別府市消防本部	6,520	89	6,126	68	141	26	2.3%	0.4
中津市消防本部	3,684	△ 73	3,472	6	437	10	12.6%	0.3
佐伯市消防本部	3,048	△ 15	2,835	△ 45	237	5	8.4%	0.3
臼杵市消防本部	2,178	50	2,064	22	602	△ 23	29.2%	△ 1.4
津久見市消防本部	1,061	3	1,022	12	291	40	28.5%	3.6
竹田市消防本部	1,390	△ 25	1,315	△ 44	619	△ 59	47.1%	△ 2.8
豊後高田市消防本部	1,427	64	1,380	76	700	97	50.7%	4.5
宇佐市消防本部	2,825	138	2,688	104	701	△ 12	26.1%	△ 1.5
豊後大野市消防本部	2,102	△ 9	1,999	△ 24	875	17	43.8%	1.4
由布市消防本部	1,729	△ 11	1,633	△ 24	977	△ 36	59.8%	△ 1.3
国東市消防本部	1,308	△ 56	1,247	△ 65	272	24	21.8%	2.9
日田玖珠広域消防組合消防本部	3,994	4	3,824	6	333	△ 31	8.7%	△ 0.8
杵築速見消防組合消防本部	2,677	238	2,474	215	1,394	80	56.3%	△ 1.8
県計	51,393	902	48,047	543	8,206	218	17.1%	0.3

第１図　　救急出動件数及び救急搬送人員の推移



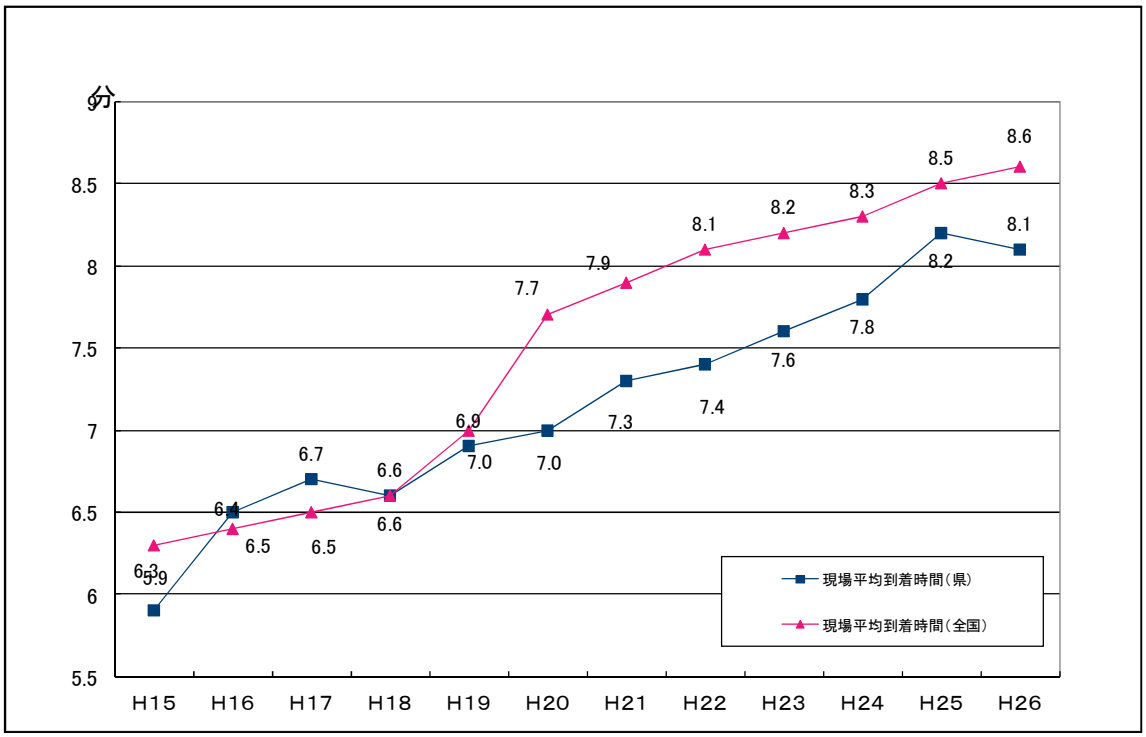
第２図　管外搬送人員の推移



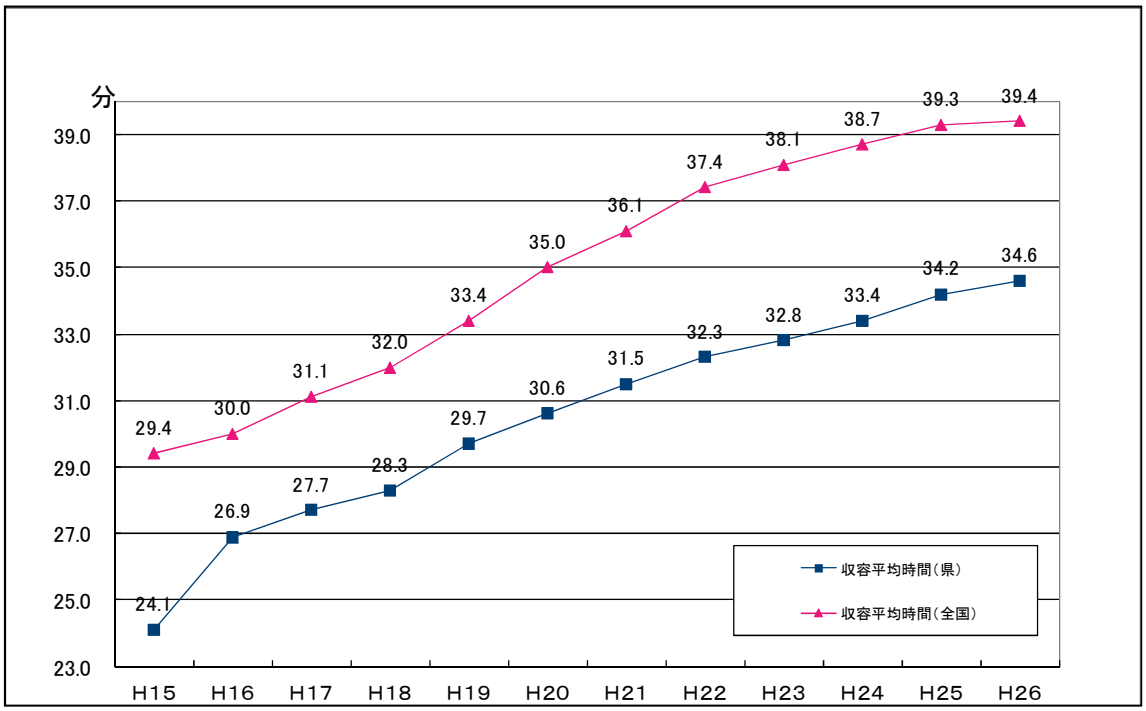
第２表　　各消防本部における現場平均到着所要時間及び収容平均所要時間

消防本部	現場到着 平均所要時間（分）	前年比（分）	収容 平均所要時間（分）	前年比（分）
大分市消防局	6.8	△ 0.3	28.2	0.3
別府市消防本部	7.7	0.1	29.5	0.9
中津市消防本部	9.3	△ 0.1	38.2	0.6
佐伯市消防本部	11.6	0.3	41.7	0.3
臼杵市消防本部	7.4	△ 0.2	31.5	△ 0.4
津久見市消防本部	6.3	0.3	34.5	0.8
竹田市消防本部	10.4	2.3	47.0	1.3
豊後高田市消防本部	6.8	△ 0.1	36.2	0.4
宇佐市消防本部	8.5	△ 0.2	37.9	0.3
豊後大野市消防本部	8.4	△ 0.4	42.9	△ 1.0
由布市消防本部	7.3	0.5	37.7	1.5
国東市消防本部	7.6	△ 0.4	44.7	1.2
日田玖珠広域消防組合消防本部	10.2	△ 0.3	41.9	1.1
杵築速見消防組合消防本部	10.5	△ 0.1	42.2	0.8
県計	8.1	△ 0.1	34.6	0.4

第３図　　現場平均到着所要時間の推移



第４図　　病院収容平均所要時間の推移



２　救急搬送の状況

【平成２６年中における救急搬送の状況】

１．事故種別搬送状況

「急病」が最も多く【27,487 人（57.2%)】、増加傾向【前年比 704 人増】にある。

その他の区分は、近年、横ばい状態である。

２．年齢区分別搬送状況

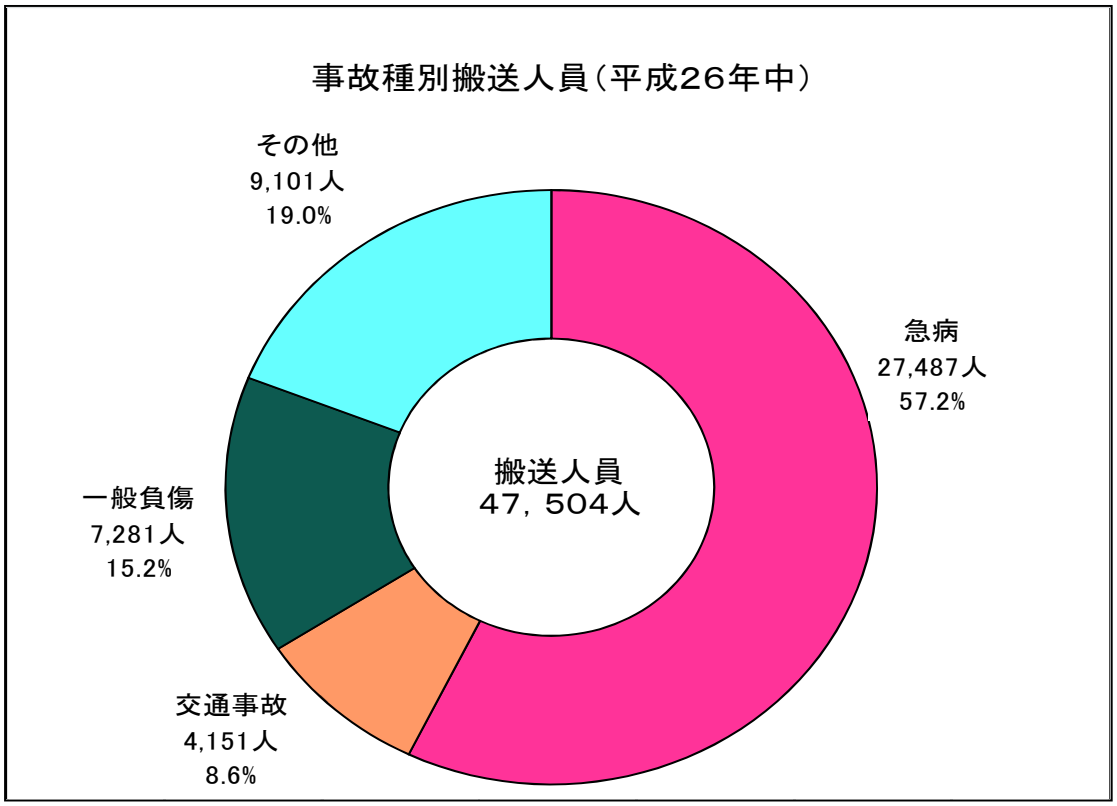
「高齢者」が最も多く【30,084 人(62.6%)】、増加傾向【前年比 1,314 人増】にある。

その他の区分は、近年、横ばい状態である。

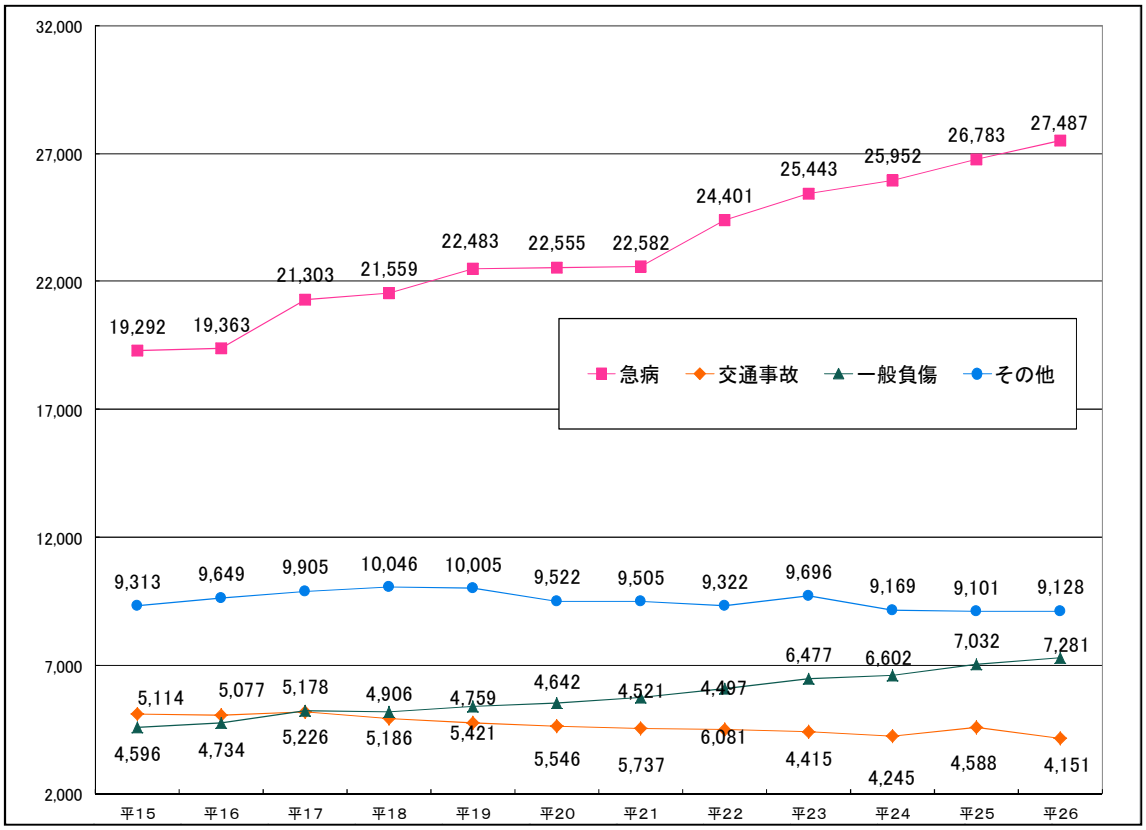
３．傷病程度別搬送状況

「中等症」が【22,167 人（46.1%)】と最も多いが、「軽症」【17,189 人（35.8%)】と依然高い割合状態である。

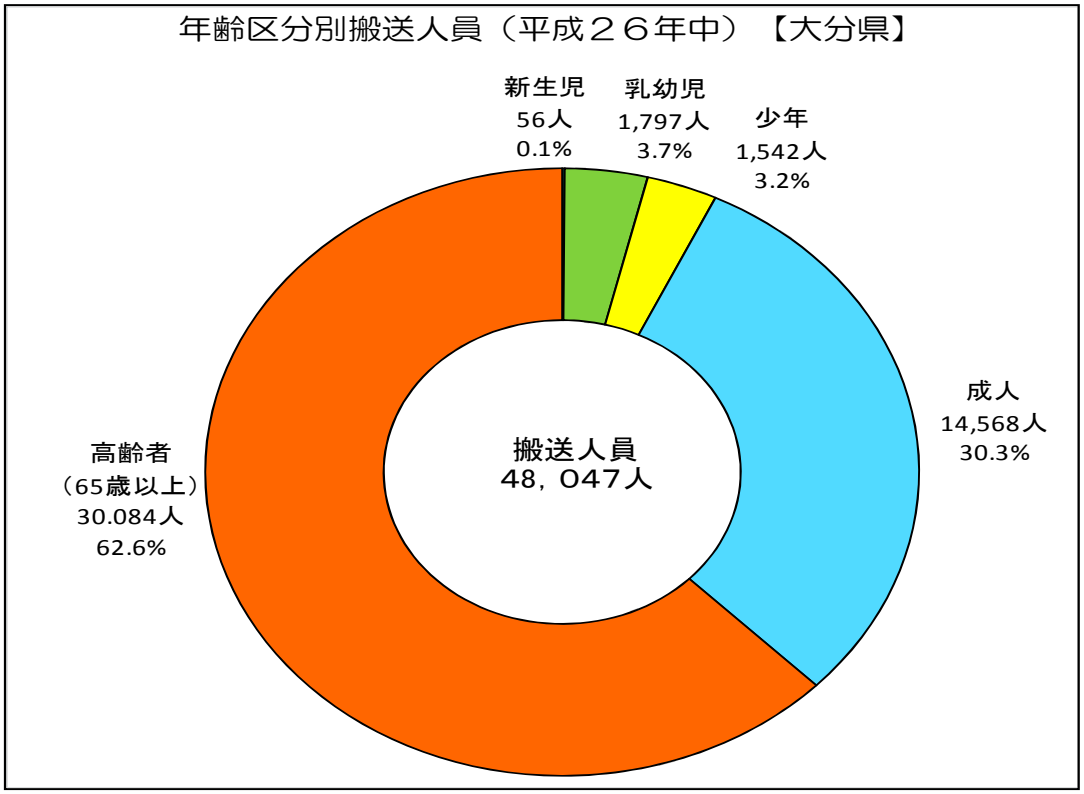
第５図　　事故種別搬送人員

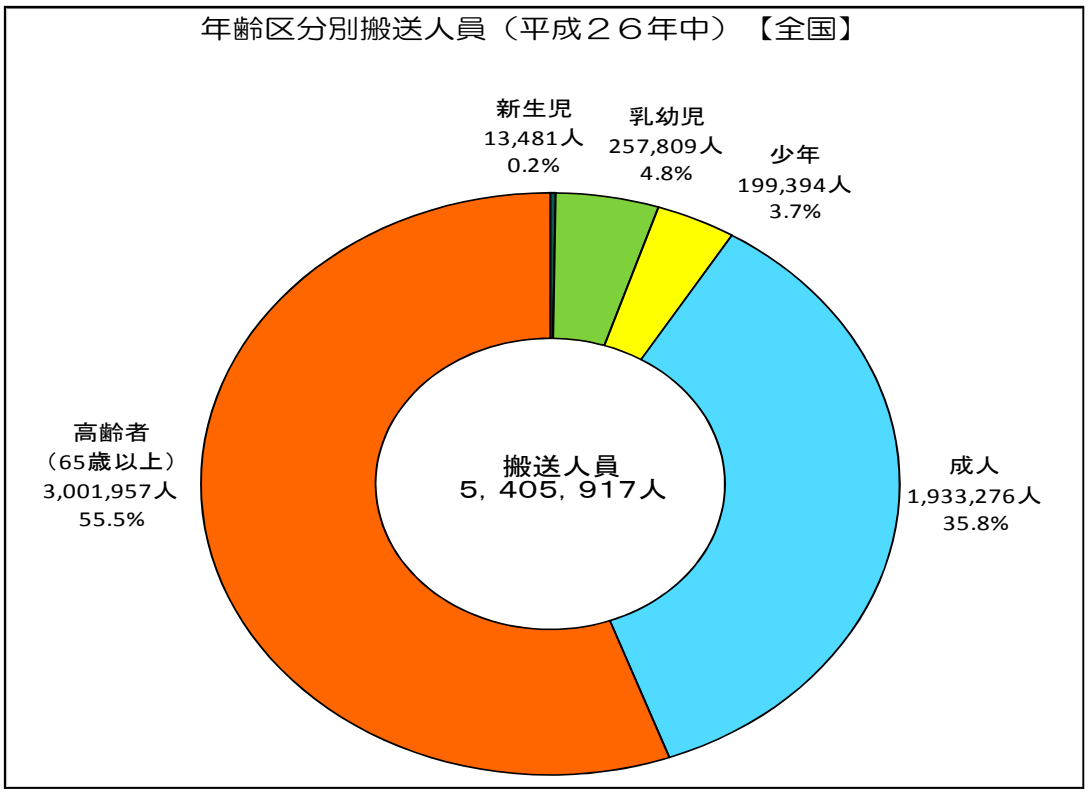


第６図　　事故種別搬送人員の推移

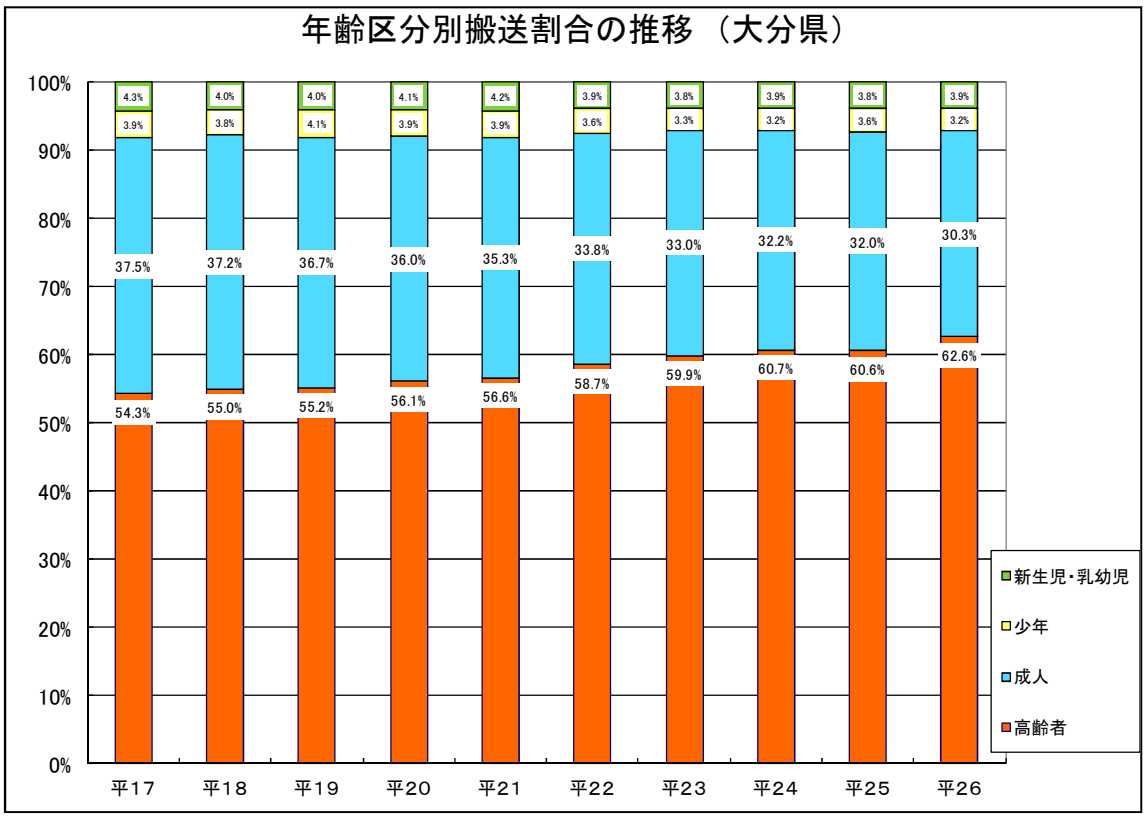


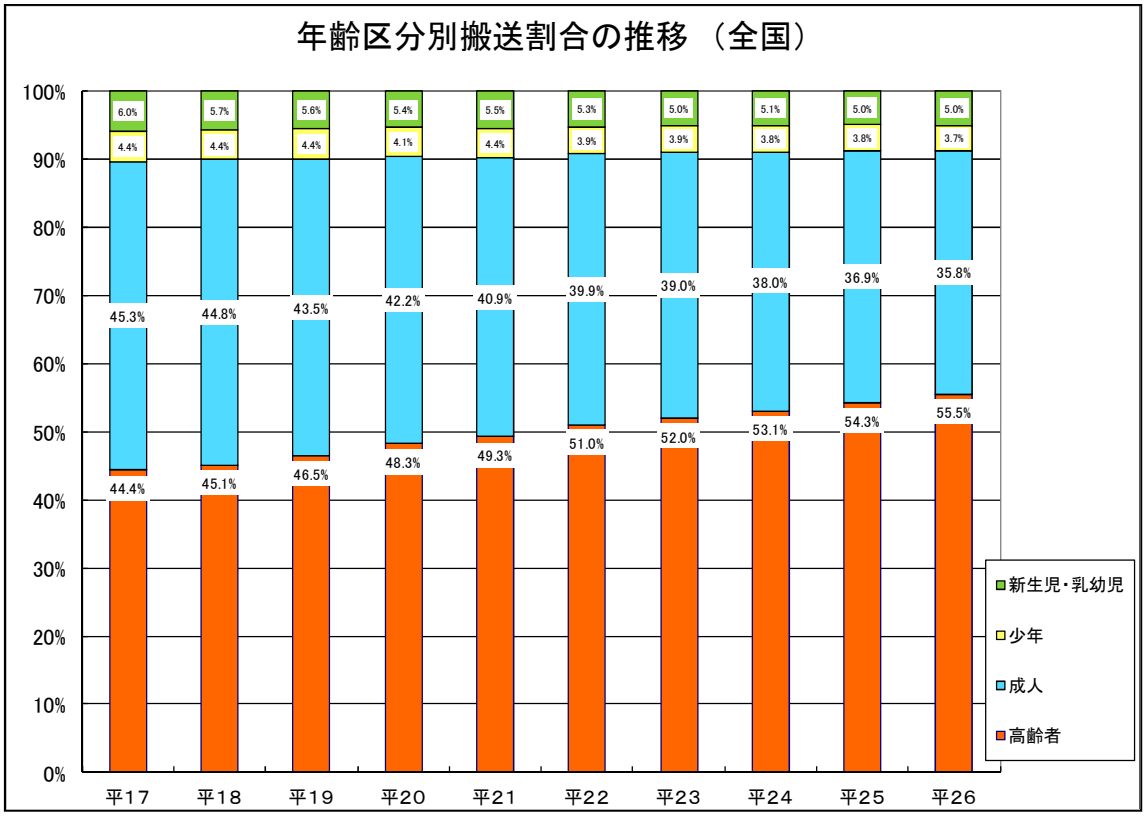
第７図　　年齢区分別搬送人員



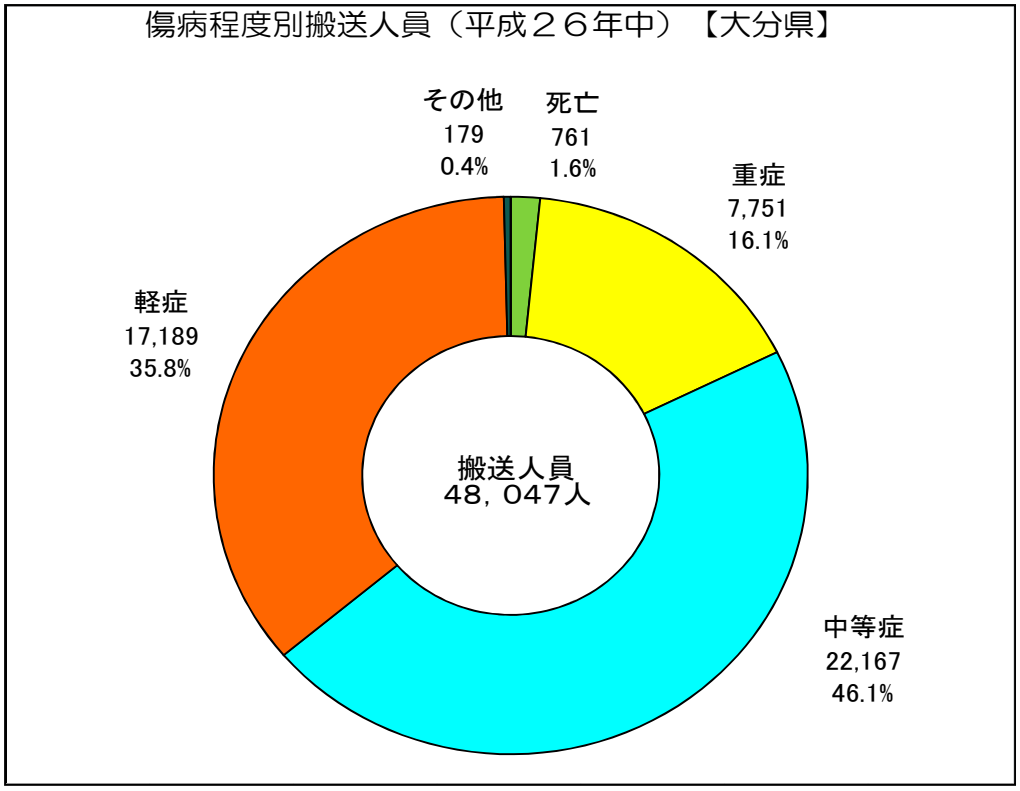


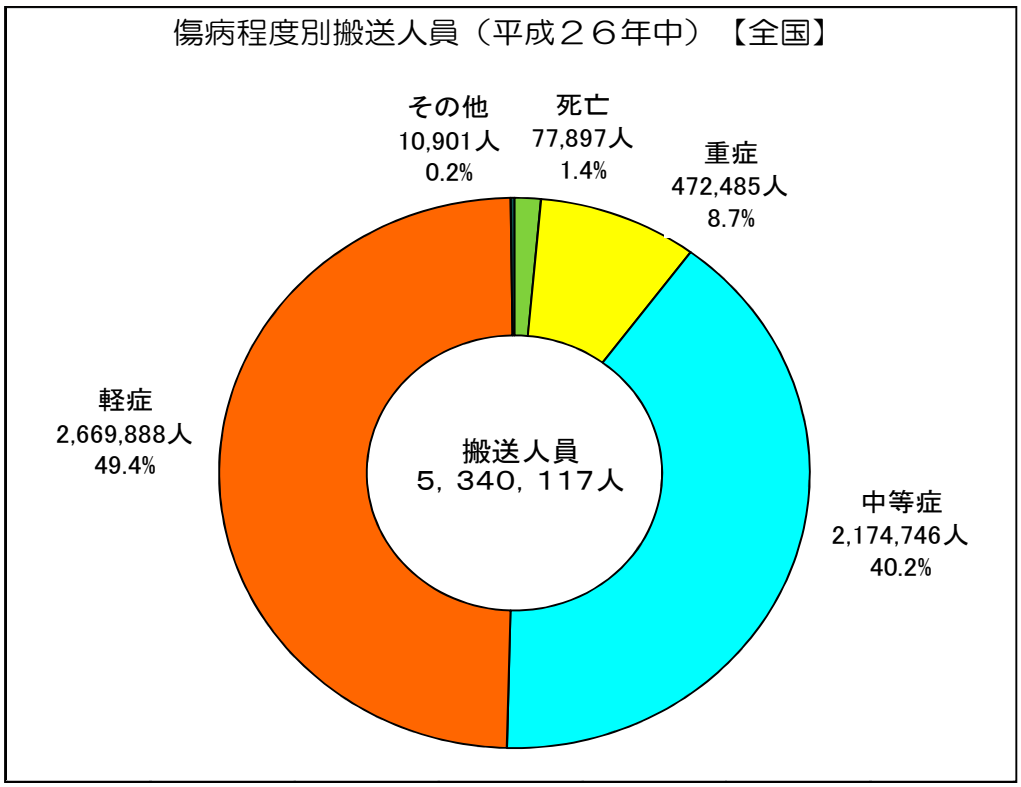
第８図　　年齢区分別搬送割合の推移



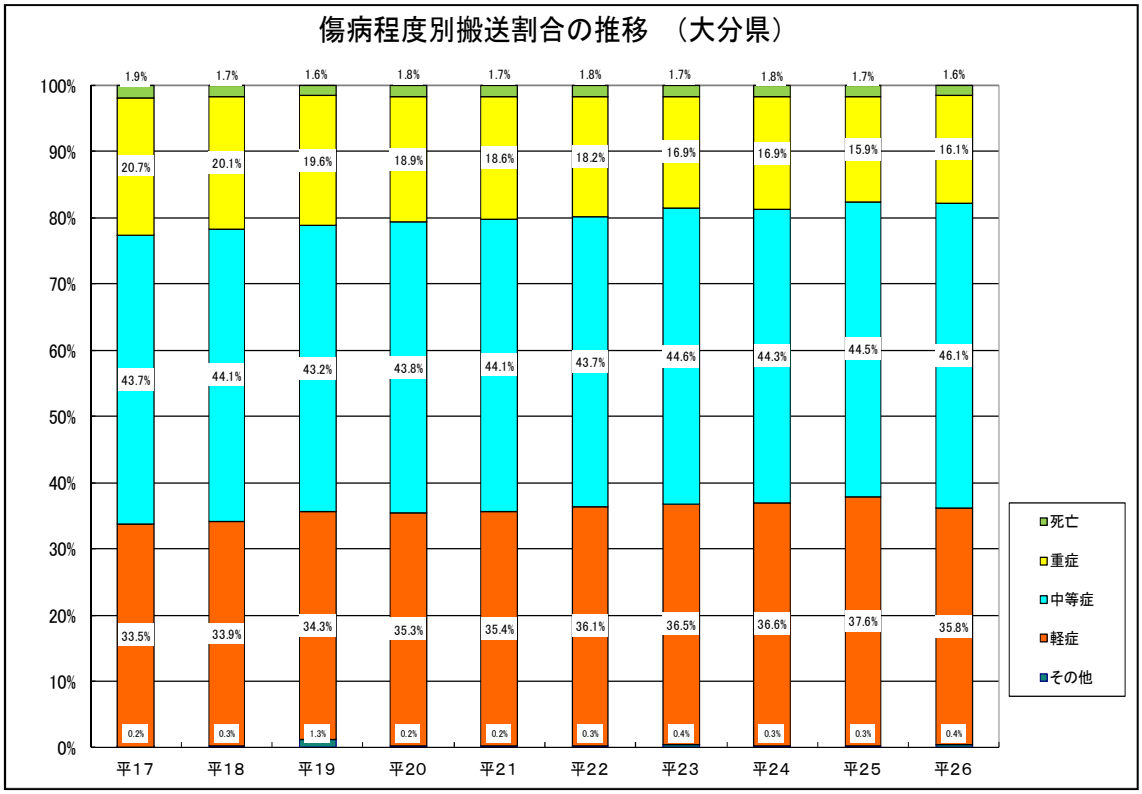


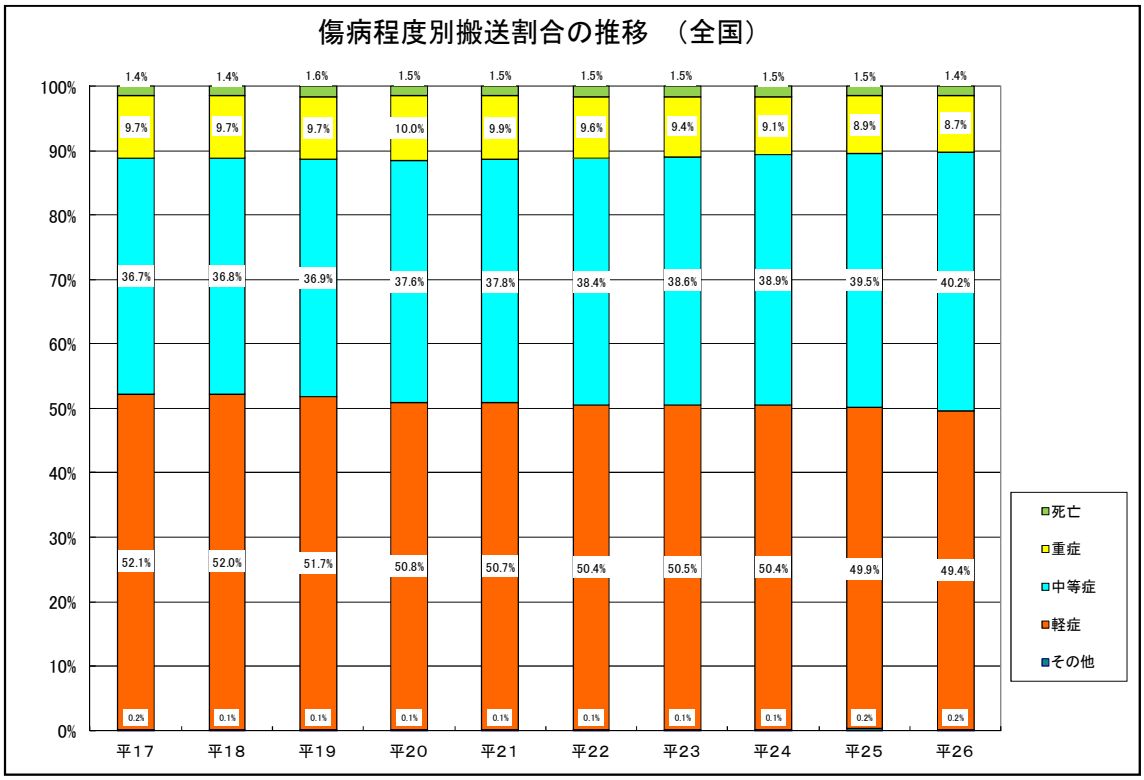
第９図　　傷病程度別搬送人員





第１０図　　傷病程度別搬送割合の推移





３　救急業務の実施体制

【平成 27 年 4 月 1 日現在の救急業務実施体制】

１．救急業務実施消防本部数　　14　本部（前年同）

２．救急隊数　　60　隊（前年 1 隊増）

３．救急隊員数　　609　名（前年比 18 名増）

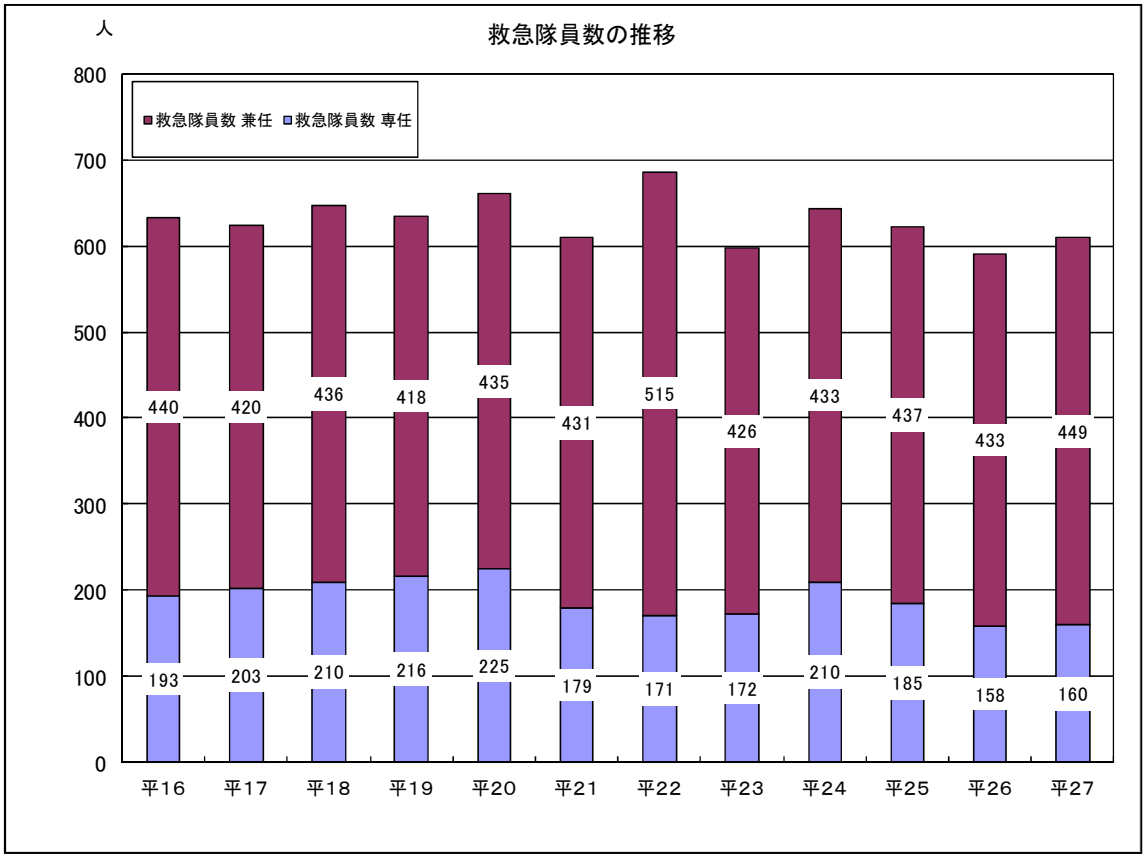
４．救急自動車数　　73　台（前年比 1 台増）

５．うち高規格救急自動車　　64　台（前年比 4 台増）

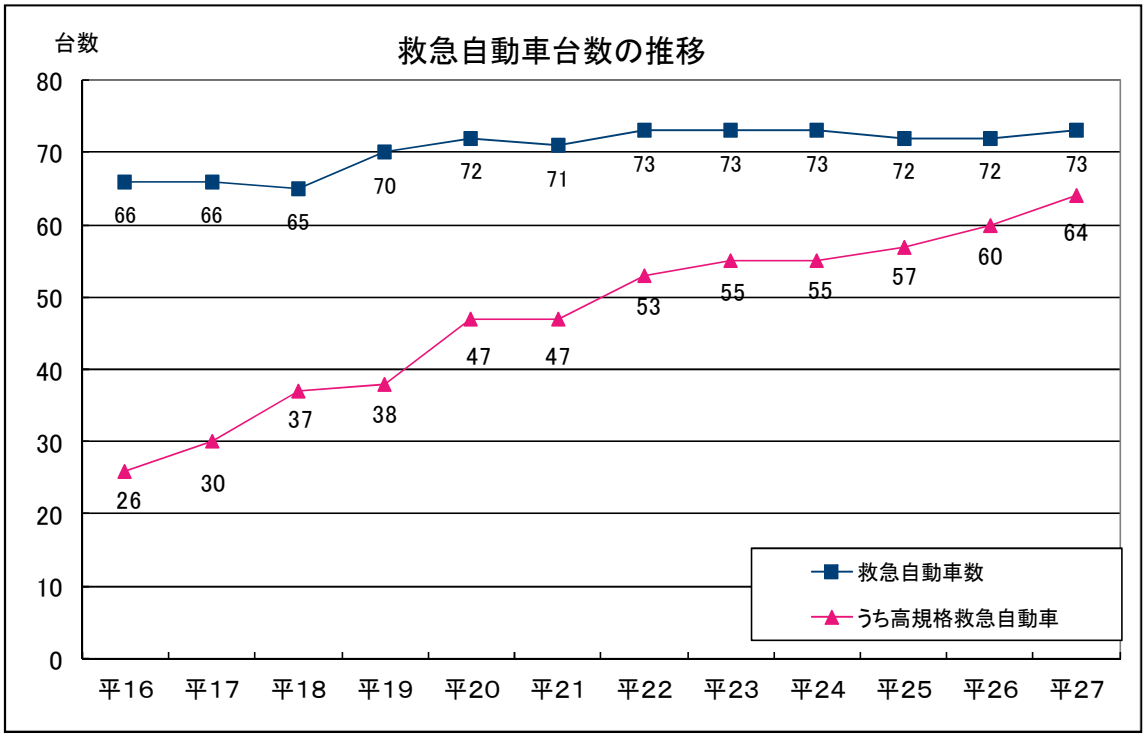
６．高規格救急自動車導入率　　87.7　%（前年比 4.4 ポイント増）

【全国平均　93.3 %】

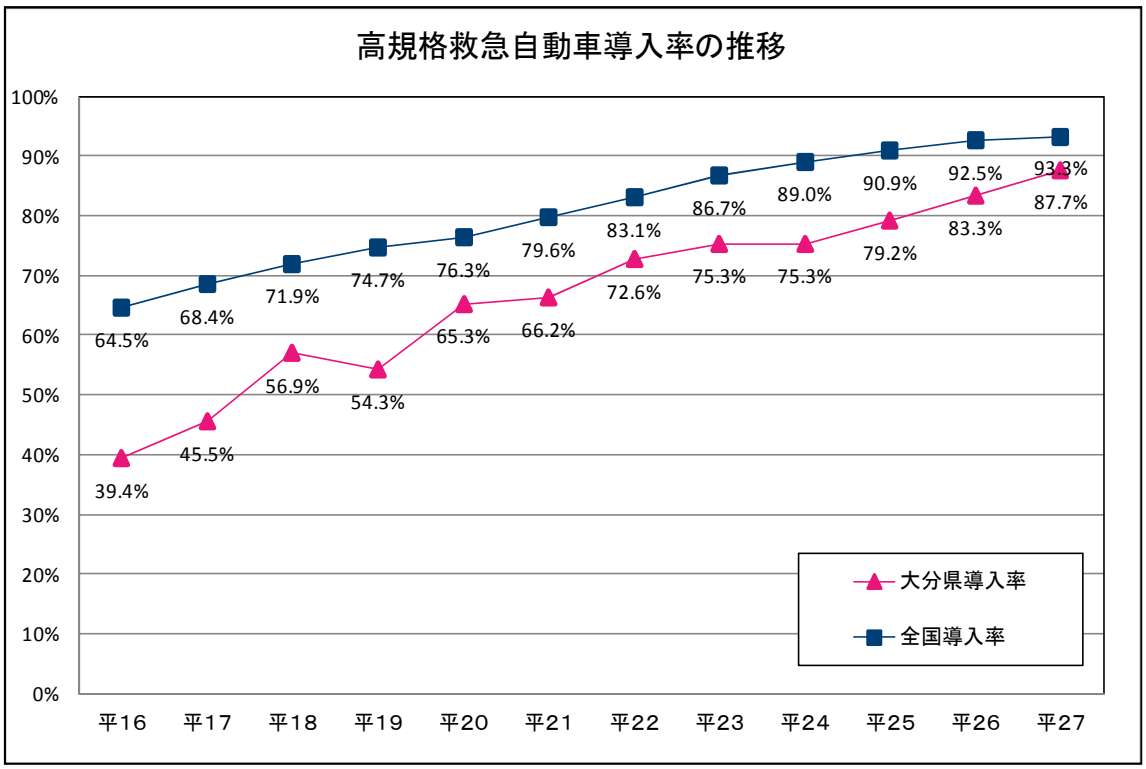
第１１図　　救急隊員数の推移



第１２図　　救急自動車台数の推移



第１３図　　高規格救急自動車導入率の推移



【平成 27 年 4 月 1 日現在の救急救命士活動状況】

１．救急救命士有資格者数　366　名（前年比 14 名増）

２．うち救急業務従事者数　290　名（前年比 6 名増）

３．うち救急業務専任者数　114　名（前年比 10 名減）

４．救急救命士運用隊数　57　隊（前年比３隊増）

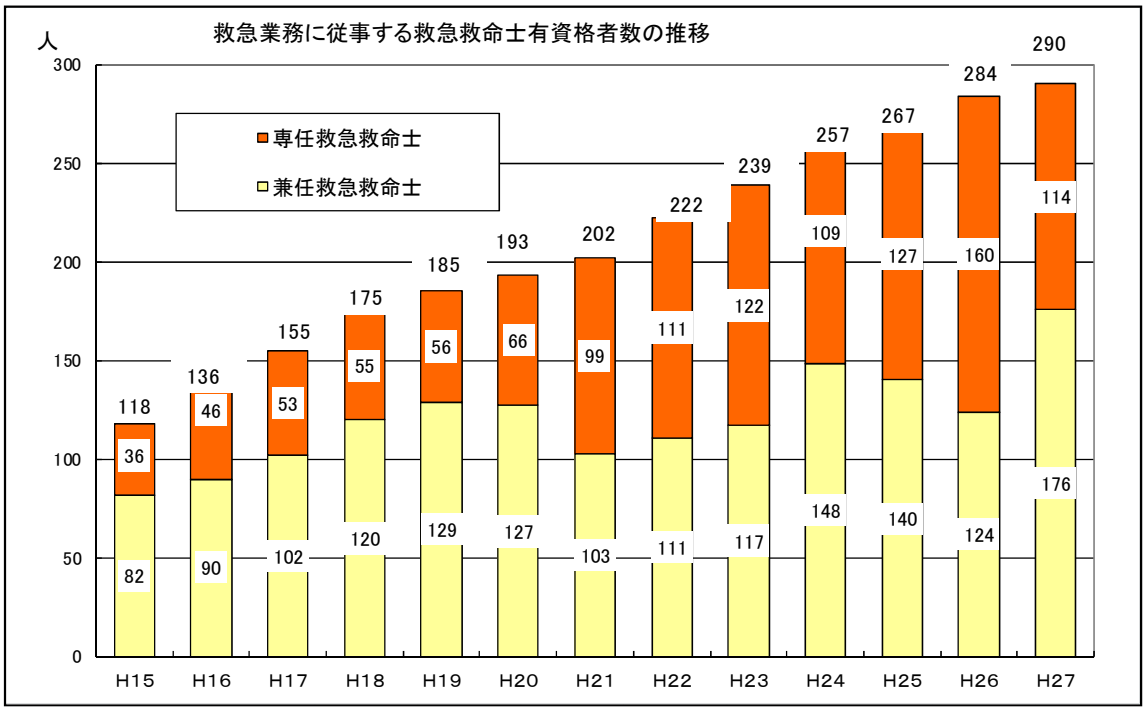
５．救急救命士運用率　95.0　%（3.5 ポイント増）【全国平均 97.8%】

（救急救命士所属隊数／総救急隊数）

第３表　　各消防本部における救急業務に従事する救急救命士数（単位：人）

消防本部	救急救命士有資格者数	救急業務に従事する救急救命士		
			うち専任	うち兼任
大分市消防局	90	66	59	7
別府市消防本部	33	19	19	0
中津市消防本部	25	24	8	16
佐伯市消防本部	28	25	0	25
臼杵市消防本部	18	14	14	0
津久見市消防本部	12	9	0	9
竹田市消防本部	19	16	0	16
豊後高田市消防本部	12	12	0	12
宇佐市消防本部	24	21	8	13
豊後大野市消防本部	23	12	0	12
由布市消防本部	15	15	0	15
国東市消防本部	17	14	0	14
日田玖珠広域消防組合消防本部	30	30	0	30
杵築速見消防組合消防本部	20	13	6	7
県計	366	290	114	176

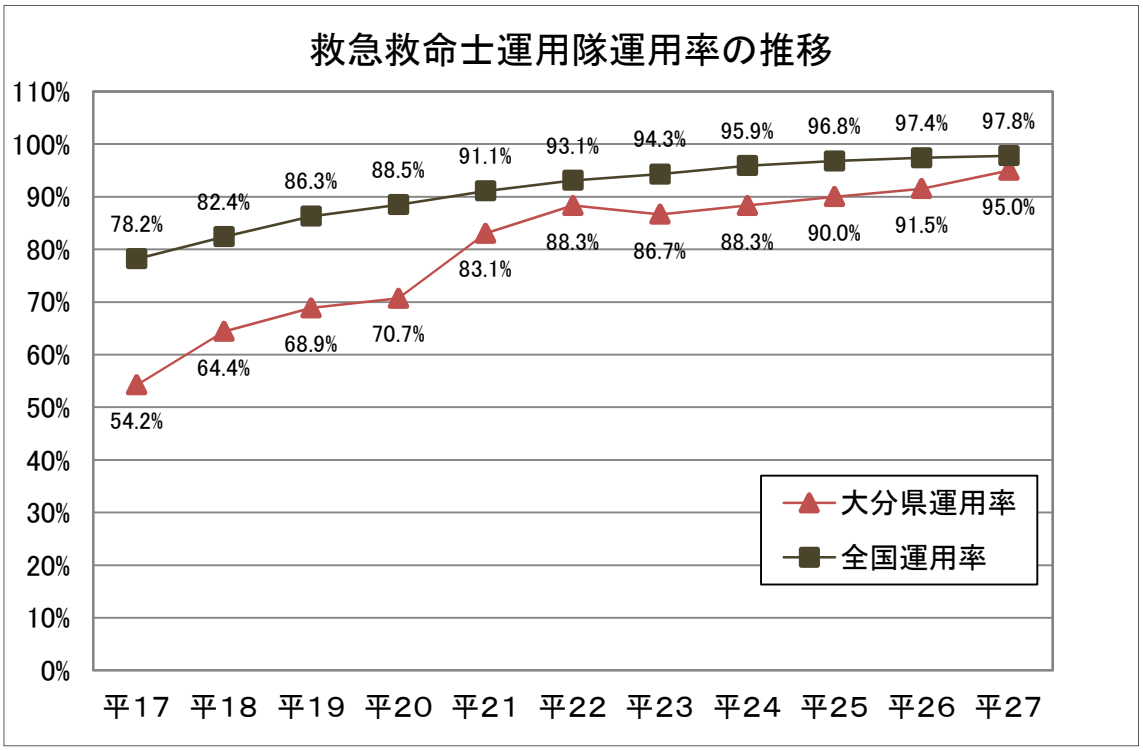
第１４図　　救急業務に従事する救急救命士有資格者数の推移



第４表　　各消防本部における救急救命士運用率

消防本部名	署所数	救急隊数	救急救命士運用隊数			
			運用隊数		うち常時	
			隊数	運用率	隊数	運用率
大分市消防局	14	12	12	100.0%	12	100.0%
別府市消防本部	4	4	4	100.0%	4	100.0%
中津市消防本部	3	4	4	100.0%	4	100.0%
佐伯市消防本部	5	6	5	83.3%	5	83.3%
臼杵市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
津久見市消防本部	1	1	1	100.0%	1	100.0%
竹田市消防本部	2	3	3	100.0%	3	100.0%
豊後高田市消防本部	2	2	2	100.0%	2	100.0%
宇佐市消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
豊後大野市消防本部	4	4	4	100.0%	3	75.0%
由布市消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
国東市消防本部	4	4	4	100.0%	3	75.0%
日田玖珠広域消防組合消防本部	5	8	6	75.0%	2	25.0%
杵築速見消防組合消防本部	3	3	3	100.0%	3	100.0%
計	55	60	57	95.0%	51	85.0%

第１５図　　救急救命士運用率の推移



４　救急救命処置の実施状況等

【平成 26 年中における救急隊員による救急救命処置の実施状況】

気管挿管実施認定救命士及び薬剤投与実施認定救命士の増加により、器具による気道確保（気管挿管）、静脈路確保、薬剤投与の各特定行為実施件数について、器具による気道確保は減少しているが、静脈路確保及び薬剤投与は増加している。

１．除細動　124　件（前年比 16 件減）

２．静脈路確保　296　件（前年比 70 件増）

３．器具による気道確保　315　件（前年比 20 件増）

うち気管挿管　122　件（前年比 9 件増）

４．薬剤投与　223　件（前年比 73 件増）

第５表　救急救命処置実施件数（単位：件）

消防本部	除細動	静脈路確保	器具による気道確保		薬剤投与
				うち気管挿管	
大分市消防局	39	50	46	24	34
別府市消防本部	12	62	50	9	42
中津市消防本部	9	24	37	15	20
佐伯市消防本部	14	52	32	22	42
臼杵市消防本部	3	24	28	12	14
津久見市消防本部	4	5	5	4	6
竹田市消防本部	4	18	21	15	16
豊後高田市消防本部	3	12	15	1	12
宇佐市消防本部	11	12	20	2	8
豊後大野市消防本部	5	3	10	3	3
由布市消防本部	8	8	13	7	9
国東市消防本部	3	2	14	0	2
日田玖珠広域消防組合消防本部	5	18	15	7	13
杵築速見消防組合消防本部	4	6	9	1	2
県計	124	296	315	122	223

※「器具による気道確保」には、経鼻エアウェイにより気道確保を行った件数及び喉頭鏡・鉗子等を使用して異物除去を行った件数を除く

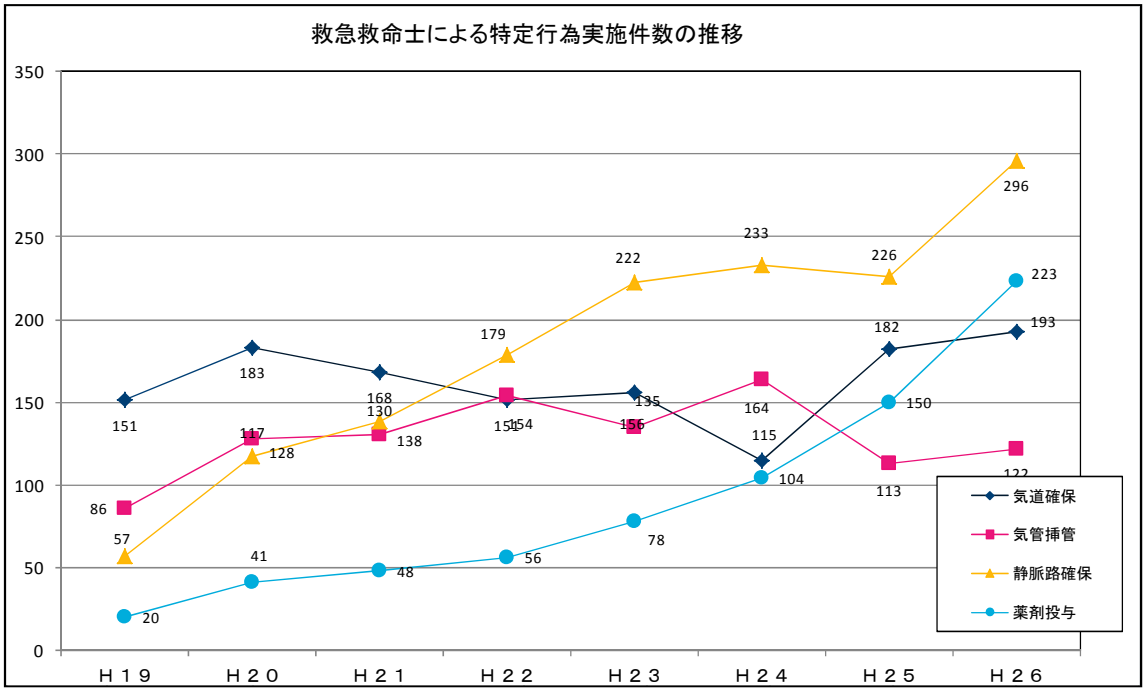
第６表　　救急救命士による特定行為の実施状況

対象年	救急救命士数（運用数）	気管挿管認定者数	薬剤投与認定者数	対象年	救急出動件数	気道確保※1	気管挿管※2	静脈路確保	薬剤投与
H18.4.1	175	11	2	平成17年	43,469	111	7	9	－
H19.4.1	185	30	18	平成18年	43,447	127	33	33	1
H20.4.1	193	46	33	平成19年	44,666	151	86	57	20
H21.4.1	202	71	73	平成20年	44,776	183	128	117	41
H22.4.1	222	96	92	平成21年	44,754	168	130	138	48
H23.4.1	239	106	148	平成22年	46,898	151	154	179	56
H24.4.1	257	113	182	平成23年	48,679	156	135	222	78
H25.4.1	267	116	215	平成24年	48,786	115	164	233	104
H26.4.1	284	116	241	平成25年	50,491	182	113	226	150
H27.4.1	290	114	261	平成26年	51,393	193	122	296	223

※１　救急救命士がラリンゲアルマスク等（ＬＴ、ＷＢ、ＣＢ、ＥＧＴＡ等）を使用して行ったもの

※２　救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行ったもの

第１６図　　救急救命士による特定行為実施件数の推移



【平成 26 年中における消防機関による応急手当普及講習の実施状況等】

平成 26 年中に消防機関が行った応急手当普及講習の修了者数は、11,319 人となっている。

第７表　　応急手当普及講習修了者数の推移

区分	住民に対する応急手当普及講習修了者数		
	普通救命講習	上級救命講習	合計
平成7年	847	94	941
平成8年	1,790	100	1,890
平成9年	2,525	122	2,647
平成10年	2,981	69	3,050
平成11年	3,274	88	3,362
平成12年	3,722	131	3,853
平成13年	4,698	365	5,063
平成14年	5,064	353	5,417
平成15年	5,850	540	6,390
平成16年	5,406	479	5,885
平成17年	7,804	472	8,276
平成18年	9,021	520	9,541
平成19年	11,599	301	11,900
平成20年	12,092	381	12,473
平成21年	9,767	412	10,179
平成22年	9,873	404	10,277
平成23年	9,939	361	10,300
平成24年	12,520	416	12,936
平成25年	11,032	323	11,355
平成26年	11,005	314	11,319